

課題集約シート まとめ

配布資料11

※第1回・第2回専門部会での主な意見を抽出

	課題（不足している要因）			考えられる解決策	
	カテゴリ	課題	内容	解決策	具体的な方法
生活介護 短期入所 共通	人員の不足や 専門性	人手不足	身体状況の重度化が進み、マンツーマン以上の対応が必要な場面が増えており、結果的に1日に対応出来る人数が減ってしまう。	<ul style="list-style-type: none"> 潜在看護師の掘り起こし 医療的ケアの程度に応じた受け入れ先を整理する 訪問看護師が生活介護や短期入所に対して、巡回支援が出来る仕組み 介護職員の喀痰吸引研修受講の促しや補助 医療的ケア児者の受け入れに前向きな事業所間でのネットワークづくり 訪問看護師など、本人のケアに慣れた人が手技を指導する仕組み 気軽に医師や看護師に相談できる体制づくり 	<ul style="list-style-type: none"> 啓発の場 軽微な医療的ケア児者の受け入れ先を新規開拓し、重度者の受け入れ先を増やす。 軽微な医療的ケアであれば、看護師が施設を巡回して支援する仕組みを作る。 日頃から支援している訪問看護事業所が、施設へ訪問してケアを行う。 喀痰吸引や吸引が出来る介護職員を増やすことで、看護師の補完を目指す。 医療的ケア児者の支援をしている事業所への視察や実習等の受け入れを相互に行う。 事業所が対応に困った際に、医師や看護師に24時間体制で医療相談が出来るシステム
		専門性のある人材の不足	医療的ケア（特に人工呼吸器使用者）に対応できる職員の確保が難しい。		
		看護師の 雇用・確保	看護師を十分に配置できる報酬がないため、看護師が1人でも欠けると運営に影響がでる。		
			人材紹介会社を活用して雇用しても、紹介料が高く、また障がい者への対応経験が少ない看護師が多く、定着が難しい。		
			介護職員が行う医療的ケアのうち、経管栄養について実施は可能だが、前後の胃残量の確認や脱気等の行為は看護師が行う必要がある。介護職員が看護師の補完になりにくい。		
	人材育成	看護師であっても、個々の状態を把握し、適切にケアを行い、臨機応変な対応ができるまでに時間がかかる。			
	コーディネート	情報提供	入院や療養で入退院を繰り返している重度障がい者は必要な事業所や制度の情報を得にくい。	<ul style="list-style-type: none"> 相談支援専門員、医療的ケア児等コーディネーターの資質向上、役割強化 地域連携室の情報提供の機能を強化（入院中でも必要な情報をタイムリーに提供する） 	<ul style="list-style-type: none"> リアルタイムで空き情報が確認できるアプリやシステムの導入 学校進路指導担当との関わりの強化 医療的ケア児等コーディネーターの研修実施
		支援力	相談支援専門員、医療的ケア児等コーディネーターのコンサルティング力の不足。適切なサービスや情報の案内が必要。		
		社会とのつながり	福祉施設の利用が少なかったり、出来ない状況になると社会のつながりが薄くなってしまふ。		
	先を見据えた体制整備	医療的ケア児者の把握	医療的ケア児の数の把握が出来ていない。今後のサービス利用者数の見通し持てない。	<ul style="list-style-type: none"> 医療的ケア児者や障がい児者の数や状態の把握 	<ul style="list-style-type: none"> 病院に対して、退院する医ケア児の情報提供を依頼